

接木	手入	收穫	除病蟲害防	雑事
接木 桃梨苹果等の芽接を行ふ。	手入 稻の灌水を止む。蓼藍の中耕施肥を行ふ。大根漬菜の一番間引を行ふ。里芋葱の施肥中耕をなす。胡瓜の蔓揚をなす。果樹園の除草中耕を行ふ。種々の雑草結實する頃なれば速かに芟除すべし。甘藷の蔓を返す。	收穫 早生粟夏蕎麥玉蜀黍の嫩穂玉葱間引菜茄子南瓜蕃茄蕃椒西瓜冬瓜苦瓜甜瓜扁蒲等を順次採收す。漆液をかき取る。桃晩種水蜜桃晩生苹果葡萄中生梨等を摘る。他に輸送する桃は運搬の距離に應じて熟期より二三日先に摘採す。野草を刈る。	除病蟲害防 稻の枯莖を抜く	雑事 干瓢薄荷を製造す。牧草を乾燥す。牛を交尾せしむ。

む。

九月

本月は夏の穀菽を收めて、冬作物を蒔くべき重要な季節にして、漬菜大根等の肥培、果物蔬菜の收納等其仕事甚だ多ければ、よく順序を誤ることなく且つ勉勵すべし。

○上旬

行事の大	下種	移植	手入
行事の大	下種 油菜及び除蟲菊を床蒔にす。稻の株間に紫雲英を撒播す。萹蓄京菜高菜二年子大根葱等を蒔く。	移植 除蟲菊を移植す。	手入 稻田の水を落す。胡蘿蔔を間引きて施肥中耕す。漬



收穫 除蟲害防 雜事 下種

菜大根、蕪菁等を間引く。果樹、桑、茶園等を除草、施肥し、果樹も果物の摘採後なれば施肥すべし。瓜類の跡を整地す。水田畦畔の草を削る。採種田の變り穂及稗をぬく。甘藷の蔓を返す。收穫 早生粟を刈る。牧草の二番刈を行ふ。煙草、豇豆、蔬菜等の玉蜀黍、甘藷、玉葱、茄子、蕃茄、蕃椒、南瓜、西瓜、越瓜、扁蒲、間引菜等を採收す。晩生の梨、苹果、葡萄等を採る。漆液をかき取る。病蟲害防 稻の枯莖をぬく。雜事 干瓢、煙草を乾燥製造す。

○中旬

下種 油菜、除蟲菊を蒔く。紫雲英は稻の株間に撒播し、又は畑に床蒔し置くべし。罌粟は移植し難ければ直蒔すべし。蒿草、甘藍、花椰菜、葱等を床蒔にす。泊夫藍を栽植す。

移植 手入 收穫 雜事 下種

移植 蘭苗の床植を行ふ。除蟲菊及び洋苺を移植す。

手入 麥作地を整ふ。秋蕎麥に培土す。大根、蕪菁、漬菜類を間引きて施肥中耕す。胡蘿蔔の最終間引をなし、除草、施肥を行ふ。茄子及び瓜類を揚げて跡を整地す。果樹園の除草中耕を行ふ。畦畔の草を削り、水田の稗を抜く。

收穫 極早生の稻を刈り始む。稗、黍、早生大小豆、豇豆、蕃椒、秋茄子種々の瓜類、間引菜等を收む。蓼藍の二番刈を行ふ。煙草、蔬菜、用甘藷、甲州葡萄、中生洋梨、晩生苹果、漆液等を採收す。雜事 蓼藍の葉を乾燥製造す。干瓢を作る。麥類の種子を選る。

○下旬

下種 大麥、小麥、裸麥等を蒔く。油菜を直蒔す。甘藍、花椰菜



手入	收穫	雑事
<p>玉葱、葱、高苜等を床蒔きにする。</p> <p>手入 秋蕎麥に培土す。漬菜大根等を始めて施肥中耕す。</p> <p>胡蘿蔔の最終の間引中耕を行ふ。果樹園を除草中耕す。麥畑を整地す。瓜類を揚げて跡地を整ふ。種實の散亂せざる中に速かに雑草を刈取へし。稻の穂選を行ふ。</p>	<p>收穫 早生の水陸稻、大小豆、粟、稗、黍、豇豆、煙草等を收む。薄荷及び蓼藍の二番刈を行ふ。此頃牧草の三番刈を行ふことあり。秋茄子及び瓜類を收め終る。晩生の葡萄、苹果、梨、無花果、漆液等を採る。落葉松の毬實の濃紫色を呈するを待ちて採收す。</p>	<p>雑事 稻、大小豆、粟、稗等をよく乾燥すべし。煙草は室内にて、干瓢、蓼藍、薄荷等は屋外にて雨露に遭はさぬ様に乾燥製</p>

造すべし。麥の種子の比重選を行ふ。

十月

本月下旬に入れば結霜を見るほどのことあれば、其前に夏の穀菽を收め、麥を蒔くべし。必要なる作物にはそれぞれ寒防をなし、又秋の蔬菜を順次に收納すべし。

○上旬

下種	手入	收穫
<p>下種 大麥、裸麥、小麥、燕麥等を下種す。百合を栽植す。</p>	<p>手入 床蒔の油菜、高菜、甘藍等を間引く。麥作地を施肥整地す。稻の穂選を行ふ。茄子、瓜類の蔓を揚ぐ。</p>	<p>收穫 早生の水陸稻を刈る。粟、黍、蜀黍、稗、大豆、小豆、菜豆、煙</p>



雑事	下種	移植	手入
草薊等を収む。採種用の牧草及び蓼藍を刈る。絲瓜大根漬菜小燕菁甘藷蓮根慈姑菊芋等の採收を始む。秋茄子晩生萃果梨無花果漆液落葉松の毬實等を採る。	○中旬 速かに大麥小麥裸麥燕麥等を蒔くべし。蠶豆百合根等を下種す。	二毛作用の油菜を移植す。	水田及び夏作跡の畑地を耕耨す。油菜甘藍高菜等を間引く。除蟲菊洋莓石刁栢等の除草中耕をなし且つ施肥を行ふ。大根京菜高菜等に施肥中耕す。暖地産の草木に寒防

雑事	下種	移植	手入
雑事 稻蕎麥等を乾燥調製す。絲瓜及び煙草を乾燥製造す。薄荷の取卸を行ふ。	○下旬 蠶豆を蒔く。	油菜の普通の移植期なり。此頃麥を移植することあり。除蟲菊の株分け移植を行ふ。林野に樹苗を植付く。	水田並に夏作跡の畑を暇を得て耕起し置くべし。



收穫

雜事

油菜、高菜、京菜等の間引中耕を行ふ。除蟲菊、右刀栢、欵冬等の除草中耕施肥を行ふ。大抵此頃に初霜あれば暖地産の草木には適宜に寒防を設くべし。

**收穫** 晩生稻、粟、蜀黍、蕎麥、漆液等を收め終る。落花生蕃椒、絲瓜、棉、百合根、葱、大根、甘藍、漬菜、蕪菁、里芋、甘藷、馬鈴薯、燕姑、菊芋並に杉、扁栢の毬實、漆の實、早生柿等を採收す。

**雜事** 稻を調製す。田畑の雜草、塵芥等を集めて燒棄すべし。

本月十五日より法律の定めによりて各種の保護鳥を除くの外は狩獵を許さる。

○沿岸一帶に五月に始めたる石花菜の採收を終る。

行事の大

下種

移植

手入

十一月

本月は霜を結び又時に降雪を見ることあれば、速かに夏作物を收め、空畑を耕し、防寒の用意を調ふべし。麥、油菜の一番中耕と秋蔬菜の收納も亦主要なる本月の行事なり。

○上旬

**下種** 和種豌豆及び蠶豆を蒔く。

**移植** 速かに油菜の定植を終るべし。此頃害蟲及び畑の都合によりて麥を移植することあり。林野に樹苗を栽植す。

**手入** 麥類、茶樹の施肥中耕を行ふ。桑は根元の土を掘り上げて枝を結束す。藺田の耕耨施肥をなす。梨、苹果、桃李等の果樹を剪定す。空地はなるべく耕起して越冬せしむべし。寒



收穫	雑事	下種	移植	手入
よげを作る庭木に雪支を設く。	收穫 蕃椒落花生葱大根漬菜小蕪菁葱甘藍花椰菜蓮根 慈姑貯藏用の甘藷薑百合里芋甘露子等を收む梨(赤龍)柿栗 漆液等を採收す。	雑事 稲を扱き粃を摺る田畑の雑草塵芥等を集めて焼 く。蜜蜂の窠箱を菰包にして寒さを防ぐ。	○中旬 下種 和種の豌豆を蒔く。 移植 蘭を植う。山林樹木を植付く。桑及び落葉果樹を移 植してよし。	手入 油菜及び麥類の一番中耕をなし、又追肥を施すべ き普通の時節なり。蘭田の灌水施肥及び整地を行ふ。苹果桃

收穫	雑事	移植	手入
梨李等の剪定をなす。桑の根元の土を掘り上げ、枝を結束す。 紫雲英に防寒の切藁を撒く。庭木に雪支を設く。田畑の空地 を耕起す。	收穫 漬菜大根蕪菁甘露子並に蓮根牛蒡葱慈姑胡蘿蔔 里芋甘藷栗柿等を順次採收す。漆液をかき終る。	雑事 稲を調製す。田畑の雑草枯葉落藁等は集めて厩肥 と共に堆積するか、又は焼棄すべし。醃柿を製造す。蜜蜂の窠 箱に菰を捲く。	○下旬 移植 山林樹木を植う。落葉果樹及び桑を移植してよし。 手入 油菜麥類桑茶等の施肥中耕を行ふ。桃梨苹果李等 を剪枝す。紫雲英に防寒用の切藁を散布す。蘭はよく灌水せ



收穫 雜事

ざれば凍害にかゝることあり。桑の枝を結束す。空地を犁起す。樹木の雪支及び苗床の雪覆を設く。採種用の漬菜大根等は抜きとりて別に寒防をなして培養す。  
**收穫** 漬物用の大根、漬菜、蕪菁、葱、牛蒡、胡蘿蔔、蓮根、慈姑等を收む。楮三極を刈取る。柿を收め、栗を拾ふ。  
**雜事** 楮三極を調製す。楮三極等の皮を剥ぎ製造す。  
○沿岸一帯に此月より四月頃迄昆布を採收す。

十二月

要行事の大

寒さを増し霜を結び雪を下すゆえ、蔬菜類を收め、苗床に雪覆を施し、又種々越冬の準備をなすべし。農地の改良工

手入

事を實施するに都合良し。

○上旬

**手入** 藪に一番肥を施す。茶桑果樹等に寒肥を施す。空地を犁起す。種々の苗床に雪覆を設く。尚ほ果樹の剪定を行ふ。  
**收穫** 漬物用の大根、漬菜、蕪菁、慈姑、蓮根、牛蒡、葱、胡蘿蔔等を收む。楮三極及び山林樹木を伐採す。  
**雜事** 稻を調製す。楮三極を剥皮す。清酒、澱粉、疊表の製造に着手す。此頃豚、羊等を交尾せしむれば、春季分娩してよし。炭焼を始む。大根を乾燥す。大根、蕪菁、胡蘿蔔等を土中に埋藏す。

○中旬

**手入** 藪及び果樹園に施肥す。空地を犁起す。

手入

雜事

收穫



收穫

收穫 漬物大根蓮根慈姑胡蘿蔔等を收め終る。葱を採る。

雑事

三桎楮並に山林樹木を伐採す。

雑事

三桎楮を剥皮製造す。稲粃を摺る。清酒澱粉。鹽表俵

等を作る。豚を交尾せしむ。炭を焼く。

○下旬

雑事

山林樹木を伐りて炭を焼き又三桎楮等の皮を剥

ぎ漂白す。稲を調製す。雪の少き地にては此頃迄果樹園に施

肥す。空畑を耨起す。其他田畑家屋の内外を掃除し又收支を

計算して新年を迎ふるの準備をなすべし。

○沿岸一帯に七月に始めたる鱈漁を終る。

北陸地方之部 終

東北地方の氣候

第七

東北地方

(信濃及飛驒を附加す)

○氣候概要

此地方に於ける年平均気温は九度乃至十一度半にして同緯度に於ては西海岸の方東海岸よりも高温なり各地の春時三ヶ月間の平均気温は概ね六度半より十度迄の間を上かし月平均気温の零度下を示すは一月と二月とのみなり但し南部福島縣に於ては一月に於ても月平均気温の零度に下らざる地方あり夏時の平均気温は七月に於て既に二十度を越へ八月にありては各地共二十三度に達す降水は



比較的少量なるも七八月の頃間々霖雨多く爲めに日照時數著しく減少し、氣温の上昇大ならずして八月に於ける平均温度の二十度前後に止まることあり冬時は積雪地を覆ひ毎日雪を見ざることもなき地方多し。

今左に諸地の各月平均氣温及び霜雪期節を掲ぐ。

平均氣温

平均氣温	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
青森	(-)二、八	(-)二、四	〇、六	六、九	一二、七	一六、二	二〇、五	二三、七	一八、四	一一、九	五、七	〇、一	九、一
宮古	(-)〇、七	(-)〇、四	二、五	八、〇	一二、三	一五、八	一九、七	二三、〇	一八、五	一一、四	七、二	二、五	一〇、〇
秋田	(-)一、五	(-)一、四	二、一	八、五	一二、二	一七、八	二二、九	二三、五	一九、四	一一、五	六、八	一、六	一〇、四
山形	(-)一、五	(-)一、二	二、四	九、二	一四、五	一九、一	二三、五	二三、七	一九、七	一一、四	六、五	一、五	一〇、七
石巻	(-)〇、二	(-)〇、三	三、三	九、〇	一三、四	一七、五	二二、〇	二三、〇	一九、八	一一、三	七、九	二、八	一〇、九
金山	(-)〇、八	(-)〇、九	四、一	九、四	一四、四	一八、三	二二、〇	二三、六	一九、五	一一、四	七、二	三、四	一一、二

霜雪の期節

霜雪の期節		福島	松本	長野
平均	初雪	〇七	(-)二、〇	(-)一、六
最早	初雪	四、〇	(-)〇、〇	(-)〇、一
平均	終雪	一〇、三	二、七	二、九
最晩	終雪	一五、二	九、一	九、八
平均	初霜	一九、二	一八、六	一九、一
最早	初霜	二二、五	二二、八	二二、八
平均	終霜	二二、八	二二、五	二二、九
最晩	終霜	二〇、二	一八、五	二〇、〇

福島	松本	長野
平均	初雪	初雪
最早	初雪	初雪
平均	終雪	終雪
最晩	終雪	終雪
平均	初霜	初霜
最早	初霜	初霜
平均	終霜	終霜
最晩	終霜	終霜



松本	十一月廿七日	三十七年十一月六日	四月十五日	廿五年五月十二日	十月十七日	三十八年十月四日	五月十二日	三十一年五月廿三日
長野	十一月十八日	三十七年十一月廿三日	四月十日	廿九年五月一日	十月十九日	三十八年十月七日	五月七日	三十四年五月廿日

### 東北地方(並に信濃飛騨)年中行事

一月

行事の大要

一月の行

此月は本地方の大部分積雪地を被ひ、且つ天候常に定まらずして、屋外の作業は営み難ければ、家内にありて前年の收穫物を調製し、前年の收支計算等を明かにし、本年の事業を豫定設計し、農具馬具等を修理すべし。又藁細工品などの製作に勉め、決して寒ければとて徒食すべからず。子弟には此際補習教育を受けしむべし、尙重要な作業を摘記すれば下の如し。

家畜家禽の保護を適當にし、防寒と運動とを忽にすべから



要行事の大

二月

ず、豚、及び羊を交尾せしむべし。  
 澱粉・凍豆腐・切干大根等を製造すべし。  
 木材を伐り、雪を利用して運搬すべし。  
 積雪少なき地方にありては農地の改良工事を實施してよし。  
 下旬に入れば紅藍花の種子を浸水す。  
 ○青森地方にては此月中旬より五月迄鰯を漁る。

本月は寒氣最も強く積雪亦多ければ前月に續きて諸種の屋内作業を營むべし。暇多ければ農産物に種々の製造

雑事	收穫	手入
<p>雑事——蠶簇・蕪・草鞋・馬沓等を作る。よく家畜・家禽を保護し、厩肥は時に入れ代へて別に堆積すべし。又飼料に注意す</p>	<p>收穫——木材を伐り雪を利用して運搬すべし。又直ちに炭に焼きて賣り出すもよし。貯藏し置きたる大根・蕪・菁・蓮根等を順次取り出して用ふべし。積雪少なき地方にては葛車前葉・山慈姑等を掘る。</p>	<p>手入——積雪少なき地方にては上旬より中旬にかけて油菜を中耕し、麥を鎮壓す。早春に蒔くべき紅藍花を浸水すべし。下旬より田畑の雪の上に堆肥を施し置くことあり。温床を作る。</p> <p>加工をなし、殊に藁細工に勉むべし。俚諺に稼ぐに追つく貧乏なしと云へり決して遊び暮すべからず。</p>



べし。豚羊を交尾せしむべし。

三月

要行事の大

本月に入れば温度や、高まり下旬に至れば平地の雪は融解すべきを以て速かに田畑を整地して播種栽植に備へ、又種苗の準備に手落なき様に注意すべし。春時の耕作始めに當りて期に後れざるは寒地にありては最も肝要なることなり。雪の上に土を散布し置けば融雪速かるべし。

○上旬

下種 温床に茄子胡瓜等を蒔く。

下種

手入

福島長野等の積雪少なき地方にありては、大麥小麥油菜等に中耕施肥を行ふ所によりては麥を鎮壓す。梨苹果葡萄桃等を剪定す。

收穫

木材を伐採す。

雑事

温床を管理す。苗床の準備をなす。農具馬具を修繕す。種苗を準備す。田畑に堆肥を運ぶ。炭を焼く。

○中旬

下種

温床に茄子胡瓜蕃茄等を蒔く。暖き地方にては大麻紅藍花を下種す。積雪多き所にては雪どけを待ちて蘭苗を植うることあり。

手入

本地方の中南半部にては麥油菜を中耕す。桃李苹果梨葡萄等を剪定す。



收穫

山林の木材を伐る。

雑事

積雪とけて土地乾燥せば順次に土地を整へ、又苗代、苗床を作る。田畑に厩肥を運ぶ。漆の種子を水に浸す。炭を焼く。

○下旬

下種

茄子、胡瓜、蕃茄等を簡單なる低設温床に蒔く。漆及び紅藍花を下種す。積雪多き所にては蘭苗を此頃植うることあり。

接木

梅、櫻、苹果、桃、梨等の殺接を始めてよし。接ぎたるものは窖室等に貯へ置きて四月中旬に至りて植え出すべし。

手入

融雪を待ちて順次麥類及び油菜の二番中耕をなす。梨、苹果、葡萄、桃等を剪定す。果樹、桑等に芽出肥を施す。苗床

收穫

を作り、又よく注意して管理すべし。苗代、田並びに他の空地も速かに犁き起すべし。

雑事

收穫 木材を伐採す。海岸地方にては玫瑰の根を掘る。此頃取りたるものは最も良質の染料を含む。  
雑事 炭を焼く。苗床を作る。漆の實を浸水す。  
○秋田縣にて鱧漁をなすは三四月なり。宮城縣にては此月より九月頃迄石花菜を取る。青森及び秋田の海岸にては海苔の採收を止む。

四月

行事の大

土地を整へ、苗床を作り、順次播種栽植して期に後れざる



様に務むべし。家畜の勞役は此期に入りて最も大なれば其手入を良くし、相應の濃厚飼料を與ふることに注意すべし。

○上旬

下種 茄子・胡瓜・蕃茄・漆等を床蒔とす。春蒔・燕麥・大麻並びに青刈にする大豆・豌豆等を蒔き始む。甘藷・長野福島を床伏せす。長薯及び球根の草花類を植う。

接木 梅・李・櫻・桃・櫻・梨・桃・苹果・桑等を接ぐ。

移植 桑・桐及び諸種の果樹を移植す。

手入 大麥・裸麥・小麥・秋蒔・燕麥・油菜等の二番中耕を行ふ。

蒔に施肥す。果樹類の剪定を終るべし。桑及び諸果樹類に芽出肥を施してよし。苗代及び苗床を整地す。茄子及び瓜類の

苗床の管理に注意厚かるべし。田畑に堆肥を施してよく整地すべし。

收穫

收穫 欸冬の花蕾を取る。玫瑰の根を掘り染料を取る。此頃取りたるものは良質なり。木材を伐採し、山地の雪の融け終らざる間に運び出すを便とす。

雑事

雑事 稲刈に鹽水選を行ひ、又四五日間水に漬して播種の準備をなすべし。堆肥を切返す。雪どけ後の家屋・庭園・道路等をよく掃除し修復すべし。

○中旬

下種

下種 燕麥・裸麥を春蒔きとするは此頃なり。稻も早きものは十八九日頃より蒔き始む。藍煙草・甘藍・花椰菜・玉葱・葱・茄子・胡瓜・蕃茄・甜瓜等は寒よけをなしたる普通苗床に蒔く。



接木	移植	手入	收穫	
大馬青刈大豆早生の馬鈴薯長薯並に翠菊コスモス千日紅鳳仙花等の草花種類々の球根花卉類等を下種すをかひじきは此頃より順次にまくべし。播種後二三十日を経て採收を始む暖き地方にては扁栢杉松等を床蒔にす。	接木 蘋果櫻桃梨桃李桑等を接ぎ直ちに露地に栽植す。梨玫瑰柳薔薇等を挿木す。	移植 松杉扁栢漆樹三年生等を山地に植え出す畑地に蒔き置きたる苜蓿を田に移植す。葱蕎蒿及び高苳を定植す。	手入 直蒔油菜の三番間引及び中耕を行ふ樹苗の床代をなしてよし。苗代を整へ畦畔を塗りて施肥す。馬鈴薯畑及び春蒔麥畑を整地す。茄子瓜類の苗床管理を丁寧にするべし。	收穫 木材の伐採は此頃にて止む。蕨の根玫瑰の根を掘

病蟲害防除	雑事	下種
取る。秋冬の花蕾を收む。病蟲害防除 蘋果葡萄梨等に始めてボルドー合劑を撒布す。	雑事 稻粃を選別す。播種前の浸水は四五日間にて十分なり。蠶種を貯藏所より取り出す。厩肥を切返す。雪とけ後の庭園道路等を掃除す。殊に灌漑渠及排水渠は速によく修復すべし。	下種 苗代に蒔下しをなす。陸稻青刈大豆豌豆等を麥の作間に蒔く。春蒔燕麥オーチャードグラスチモシー等の禾草類玉蜀黍菜豆大豆大麻亞麻をかひじき等を播種す。煙草麥藍玉葱葱甘藍花椰菜高苳子持甘藍牛蒡茄子瓜類並に扁

○下旬



栢松杉赤楊白樺等を床蒔きにする。馬鈴薯芋麻の根分苗長薯等を植う。牽牛花コスモス松蟲草等の草花類を蒔く。

挿木

桑薔薇梨苹果柳等を挿木す。

移植

果樹及び杉松扁栢漆樹(三年苗等の林樹を植出す。

手入

茼蒿葱甘藍花椰菜等を定植す。

手入

大麥小麥裸麥燕麥等の中耕及び第一土寄を行ふ。

長薯を中耕す。紅藍花の一番間引を行ふ。樹苗の床がへをなす。苗代の畦畔を塗り、又灌水す。蓼藍煙草瓜類に間引灌水等の手入を十分にすべし。馬鈴薯其他の夏作畑に施肥して整地をなす。

收穫

蕨根を掘る。

除病蟲害防

病蟲害防除 果樹類には、前年の病害發生の程度により、

雑事

開花中を避けて其前後に二三回ボルドー合劑の二三斗式のもの撒布すべし。茄子瓜類の根元に木灰硫黃華等をまき置くべし。

雑事 蠶種を貯藏場より取り出すべし。雞を孵化せしむ。

稲粃を浸す。灌溉及び排水路の修繕をなす。蠶室蠶具を掃除して消毒す。

○法律によりて四月十六日より十月十四日迄は種々の鳥類の捕獲を禁ぜられたれば注意すべし。

秋田縣にては鯨漁をなす。宮城及び岩手縣の海岸にては本月より九月迄昆布を取る。



五月

行事の大

本月の重要なる行事は、夏作の穀菽類を播種し、馬鈴薯を植え、苗代苗床をよく管理することにして、又蠶を掃立て、鶏を孵化するなど要務多し。

○上旬

下種 陸稻・粟・稗・夏蕎麥・玉蜀黍・蘆粟・亞麻・落花生菜・豆・豇豆・大豆・馬鈴薯・里芋・蒟蒻・夏大根・夏菜等を下種すべし。福島・長野の兩縣にては此二三日頃迄尙水稻を蒔く。赤楊・白樺を床蒔す。

移植 玉葱・葱・甘藍・茼蒿等を定植す。扁柏・杉・檜・漆樹・赤楊等を移植す。

移植

下種

手入

收穫

雑事

下種

移植

手入 大麻・甘藍・花椰菜・草花類を間引く。長薯を中耕す。樹苗の床がへを行ふ。苗代の手入を厚くし、灌水に注意すべし。夏作の植付地を整ふ。

收穫 蕨を採取す。

雑事 灌溉排水路を修繕す。春蠶の催青をなし早きは七八日頃より掃立を始む。蠶室は其前によく掃除してホルマリン消毒を行ふべし。

○中旬

下種 陸稻・黍・稗・粟・夏蕎麥・玉蜀黍・大豆・小豆・菜豆・豇豆・刀豆・甘日大根・夏菜等を蒔く。瓜類を直蒔きしてよし。  
移植 甘藍・高苣・玉葱等を移植す。檜・松・椿等の移植も此頃より後るゝはよろしからず。甜瓜・胡瓜・西瓜等を麥の作間に



定植す。

手入 大麥・小麥・裸麥に二番土寄せを行ふ。春蒔の裸麥及

び燕麥を始めて中耕す。大麻の二番間引及び中耕施肥をな

す。蓼・藍・紅・藍・花・甘・藍・花・椰・菜・草・花・類を間引く。藺田に施肥す。

收穫 秋蒔の高苜・苜蒿等を採り始む。前月中頃に蒔きし

「をかひじき」を順次採收す。

除病蟲害防

病蟲害防除 麥の黒穂を拔取る。落花後の梨・苹果・桃等に

ボルドー合劑を撒く。瓜類の青枯病・茄子の立枯病等に注意

し其根本に木灰・硫黄華等を施し置くべし。

雑事 灌溉・排水等の溝渠を速かに修復すべし。春蠶の催

青並びに掃立を行ふ。掃立の前に蠶室蠶具の消毒を行ふべ

し。雞を孵化し育雛す。福島縣白河にては二歳駒の糶市を開

雑事

收穫

手入

く。蜜蜂の第一分封をなす頃なれば、新箱を用意して其舉動  
に注意すべし。家畜の飼料は此頃より變化するものなれば  
急劇の變化を避け、又青草を満腹せしめざる注意肝要なり。

○下旬

下種 黍・稗・蘆粟・夏蕎麥・大豆・小豆・菜豆等を蒔く。瓜類は麥

作の間に直蒔す。

移植 蓼・藍の移植を始む。甘・藍・子持・甘・藍・高苜等を移植す。

胡瓜・甜瓜・西瓜等を麥作の間に定植す。

手入 水田の整地を行ふ。春蒔の燕麥及び裸麥の中耕を

行ふ。蓼・藍・紅・藍・花・草・花・類を間引く。亞麻・長薯等を中耕す。梨・苹

果等に施肥す。玉葱の除草をなす。苗代・苗床の管理に注意す

べし。

手入

移植

下種



收穫	除蟲害防	雑事
<p><b>收穫</b> 筍宮城縣以北にては根曲竹の筍なりを取り始む。陸中岩代等にては椈(俗稱)まだのきを伐り皮より纖維を取る。苧蒿高苳をかひじき及び桑葉を採收す。</p> <p><b>病蟲害防除</b> 發病の徴あらば瓜類及び苹果梨等の果樹類にボルドー合劑を撒布すべし。麥の黑穗を抜く。</p> <p><b>雑事</b> 春蠶を掃立て且飼育す。雞を孵化せしむ。蜜蜂の第一回分封ある頃なれば新箱を用意して始終舉動に注目すべし。家畜の飼料變化期なれば注意すべし。</p> <p>○青森山形秋田等の西海岸にては此中旬より十一月末迄鰺を漁す。青森の沿岸にては石花菜を採る。</p>		

六月

行事の大要	下種	移植	手入
<p>本月の主なる作業は稻を植え、麥を刈り始め、蠶を飼ひ又夏作物を除草中耕し、瓜類を摘芽肥培する等なり。</p> <p>○上旬</p>	<p><b>下種</b> 大豆、小豆、粟、蕎麥等は皆なるべく速かに蒔くをよしとす。牛蒡を蒔く。</p>	<p><b>移植</b> 七八日頃より稻を植え始むる地方あり。蓼藍を定植す。甘藷の蔓を挿植す。甘藍、花椰菜、高苳を移植す。茄子及び瓜類を定植す。玉蜀黍を補植す。</p>	<p><b>手入</b> 春蒔の裸麥、燕麥及び陸稻を中耕す。亞麻、馬鈴薯、牛蒡は中耕して後施肥すべし。粟、稗、玉蜀黍等を間引く。百合を</p>



收穫	除病蟲害防	雑事	下種	移植
<p>摘心す。苗代の管理に注意すべし。水田を整地し、又施肥灌水す。苹果、梨の玉揃をなして後袋掛けを行ふ。花園を整ふ。</p>	<p>病蟲害防除 苗代の種々の害蟲を驅除すべし。螟蟲の蛾も漸く發生し來る頃なれば其發生を見て點燈誘殺法を行ふべし。</p>	<p>雑事 春蠶を飼育す。蜜蜂の分封熱盛なる頃なれば常に注意を怠るべからず。</p>	<p>下種 蕎麥を蒔く。</p>	<p>移植 挿秧の最も多き頃なり。茄子、胡瓜を定植す。草花類</p>

手入	收穫	除病蟲害防
<p>を栽植す。秋田縣地方にては煙草を定植す。</p>	<p>收穫 早生の裸麥及び油菜を收穫す。綠肥用の荳草を刈る。筍を掘る。洋苺須具利、高苳を採收す。會津にては此頃より漆液を搔き始む。桑葉を摘む。</p>	<p>病蟲害防除 苗代の害蟲を驅除す。螟蟲は點燈し、又採卵す。浮塵子は網にてすくひ取る。發生多ければ注油驅除をも</p>



行ふべし。馬鈴薯の疫病の害多ければボルドー合劑を一二回撒布すべし。

雑事 此頃家畜の分娩する様になし置けば成育可なり。長野縣地方にては春蠶上簇す。

○下旬

移植 煙草、甘藍、花椰菜、茄子、高苜蓿、草花類等を定植す。長野縣にては此頃挿秧す。

手入 大豆、小豆、蘆粟、麥、藍等の一番中耕をなす。麥藍には施肥すべし。陸稻及び馬鈴薯の二番中耕を行ふ。胡瓜、菜豆に支柱を立つ。梨の袋掛けを行ふ。草花類は或は支柱を立て、或は蔓を摘む等常に注意して手入すべし。稲田に灌水す。根刈桑の刈込は成るべく早きを良とす。

收穫

病蟲害防除

雑事

收穫 大麥、裸麥、油菜及び青刈燕麥を刈取る。玉葱、洋莓、木半夏、須具利等を採收す。漬菜、大根等を採種す。早作りの胡瓜を採る。漆液を掻き取る。桑葉を採る。

病蟲害防除 此頃果實の落下するものは多く病蟲害を受けたるものなれば集めて焼くか深く土中に埋没すべし。雑事 春蠶上簇す。麥をよく乾燥すべし。麥架を設けて乾燥すれば一層よろし。

○秋田縣の海岸にては此月より十月迄石花菜をとる。宮城及び岩手縣地方にては海苔の採收を止む。



七月

行事の大

小麦及び燕麥を收穫し、田畑を除草中耕し。又よく蠶を養ひ瓜類を肥培すべし。就中除草に追はれざる様に勉むるは最も肝要なり。

○上旬

下種

二十日大根をかひじき等を蒔く。

移植

煙草を定植す。福島縣三春地方葱高苜を植う。

手入

水田の一番除草並びに灌水をなす。植付後二十日

を経て一番除草をなし其後二週間宛を隔て、尙二三回除草するを普通とす。粟稗を間引きて中耕す。玉蜀黍を中耕培土す。大豆小豆豇豆馬鈴薯を除草中耕す。菜豆には支柱を立て

收穫

て、少しく培土すべし。茄子に施肥し中耕す。麥の間作とせる瓜類は麥の刈取後壟を立てかへよく肥培すべし。玉葱甘藍牛蒡等に施肥中耕を行ふ。瓜類及び長薯を摘心す。早生萃果の袋を取外すべし。草花類は或は支柱を立て、或は摘芽灌水する等細心注意すべし。根刈桑の刈込はなるべく早き方良し。

除蟲害防

收穫 大麥小麥並びに晚生油菜蠶豆豌豆等を收む。禾本科牧草の一番刈をなす。早作の胡瓜茄子を取る。櫻桃李洋莓須具利木半夏を採收す。紅藍花は開花を待ちて摘採すべし。漆液をかき取る。春蠶の繭を收む。病蟲害防除 此頃落下せる果物は多く病蟲害を受けたるものなれば速かに集めて焼棄つべし。又胡瓜にボルドー



雑事	移植	手入
<p>合劑の如き殺菌劑を撒布すべし。          雑事 速かに麥油菜を乾燥調製すべし。青森縣岩手縣等に於ては春蠶上簇す。長野縣にては春蠶種の製造を始む。水田に鯉を放つは此頃なり。大抵一坪當三尾位を放ち。食料として蠶蛹を與ふれば生育殊に佳良なり。蠶室蠶具の掃除取片附をなす。</p>	<p>○中旬          移植 葱草花類を移植す。</p>	<p>手入 粟黍を間引き。蘆粟等と共に除草中耕す。玉蜀黍陸稲菜豆を除草中耕し少しく培土す。蓼藍煙草は中耕施肥を兼ね行ふ。水田の灌水に注意すべし。蕃茄に支柱を立て。瓜類には藁を敷くべし。甘藍茄子には度々施肥するをよしとす。</p>

收穫	雑事	下種	手入
<p>玉葱里芋の除草中耕並びに施肥を行ふ。瓜類長薯を摘心す。早生苹果の袋を除く。          收穫 晩生大麥小麥燕麥禾本牧草並に藎を刈取る。蠶豆豌豆菜豆胡瓜を採る。甘藍子持甘藍を收め始む。洋苳櫻桃李須具利木半夏等を摘採す。漆液を掻き取る。繭を收む。          雑事 夏蠶を掃立つ。春蠶種を製造す。春蠶を飼ひたる蠶室蠶具を掃除して日乾すべし。麥油菜を乾燥して調製す。稲田に鯉を放つ。</p>	<p>○下旬</p>	<p>下種 秋蕎麥を蒔く。</p>	<p>手入 水稻に二番除草をなす。陸稻粟稗蜀黍蘆粟を中耕して少しく培土す。玉蜀黍に培土す。大小豆の二番中耕を行</p>



ふ。瓜類に藁を敷き、茄子と共に施肥すべし。常に水田の灌水に意を用ふべし。中生苹果及び桃の袋を取外す。

收穫

收穫 春蒔の裸麥・燕麥等を刈る。蠶豆・豌豆・亞麻を收む。夏

蕎麥・甘藍を收め、始む。菜豆・胡瓜・茄子・早生苹果・櫻桃・須具・李子

二十日大根・夏大根・夏菜等を取る。漆液をかき取る。

病蟲害防

病蟲害防 時々煙草畑を見廻りて青蟲を捕殺すべし。

雑事

雑事 夏蠶を掃立て飼育す。禾本科牧草をよく乾燥すべし。

し。

○宮城縣の海岸にては十一月より始め居たる鯨漁を終る。

青森縣地方にては五月中旬に始めたる石花菜の採收を終る。

昆布は九月まで採取す。

八月

行事の大

本月の要務は、田畑の除草・中耕及び灌水にして、蕎麥・馬鈴薯の收納・漬菜・大根類の播種等も亦重要なる仕事なり。寒中暇多き此地方にありては夏の間に一層よく勉めざるべからず。

○上旬

下種 秋蕎麥を蒔く。大根及び漬菜類を蒔き始む。

下種

手入 水田の除草。陸稻・黍・稗・蜀黍等の土寄を行ふ。大豆・小

豆・豌豆等は除草。土寄せを兼ね行ふ。煙草・茄子・玉葱・葱・里芋等

の中耕・施肥を行ふ。瓜類は適宜に摘芽・摘花をなすべし。乾燥

に過ぐれば陸稻・煙草・里芋・瓜類・草花等に灌水すべし。梨・桃・苹



果葡萄等の緑枝を剪除し、又種々に枝を曲げ誘引法を行ひ同時に除草中耕を行ふべし。漬菜大根等の作付地を整ふ。煙草の傍芽を摘む。

收穫

收穫 春蒔の燕麥夏蕎麥大麻亞麻及び野草を刈取る。藍の一番刈を行ふ。甘藍子持甘藍蔬菜用馬鈴薯胡瓜茄子等を收む。早生苹果及び桃を採取す。漆液をかき取る。山形秋田地方にては春季發育の木通蔓を採收す。蔓は直ちに漂白して所謂木通細工品を作る。採種用胡瓜を收む。桑葉はなるべく春蠶に用ひざる。桑畑より摘む様にすべし。

病蟲害防

病蟲害防 浮塵子の發生あらば速かに注油驅除を行ふべし。又水田除草の際に枯莖及び稗を抜き去るべし。煙草の青蟲を捕殺す。

雜事

雜事 夏蠶を飼育し又秋蠶を掃立つ。大麻及び亞麻を製造漂白す。

○中旬

下種

下種 大根漬菜蕪菁を蒔く。

手入

手入 速かに水稻の最終除草を終るべし。陸稻稗粟に土

寄す。刈取後の蓼藍畑はよく除草中耕して施肥し置くべし。大根漬菜類を間引く。梨桃葡萄等の緑枝剪定を行ひ、又枝を種々に曲げ誘引する等の仕事は此月中に行ふべし。又除草中耕すべし。胡瓜の蔓を揚げ、跡地を整理す。大根漬菜等の作付地を整ふべし。煙草の傍芽を摘む。  
收穫 夏蕎麥大麻苧麻藍及び野草を刈取る。甘藍蔬菜用馬鈴薯並に玉蜀黍を收む。茄子蕃茄西瓜甜瓜越瓜南瓜等



病蟲害防

を順次に採收す。採種用の胡瓜を採る。苹果(中生)及び桃を採收す。木通の一年蔓を採り漂白して種々に加工す。此頃搔き取りたる漆液は良質なり。桑葉はなるべく夏秋蠶用の桑畑より摘むべし。

病蟲害防——浮塵子發生の徴あらば注油驅除を行ふべし。煙草の青蟲を捕殺す。水田除草の際に注意して枯莖及び稗を除き去るべし。

雜事

雜事——夏蠶を上簇せしめ、秋蠶を掃立つ。蓼藍を乾燥し製葉す。大麻及び苧麻を製造す。

○下旬

下種

下種——大根・漬菜・蕪菁類を蒔く。チモシー・レッドトップ等の禾本科牧草を蒔く。

接木

接木——期を外さぬ様に桃・梨・李の芽接ぎを行ふべし。

手入

手入——水稻に花水を與ふ。陸稻瓜類にも摘宜灌水すべし。

玉葱の根元の土を搔き除く。大根・漬菜・蕪菁等を間引き、且つ施肥す。里芋・葱等の除草施肥を行ふ。梨・桃の綠枝を剪定し、又枝を種々に曲げ或は誘引する等は此月中に終るべし。桑畑及び果樹園の除草を行ふ。晩生苹果の紙袋を取外す。

收穫

收穫——蔬菜用の馬鈴薯並びに玉蜀黍を順次採收す。茄子・蕃茄・西瓜・越瓜・甜瓜・南瓜・苦瓜等も成熟するに従がひて採收す。間引菜を採る。山野に野草を刈る。苹果及び桃を採取る。漆液を搔き取る。桑葉はなるべく夏秋蠶用の桑畑より摘取るべし。

雜事

雜事——秋蠶を飼育す。蓼藍を乾燥す。大麻・苧麻等の皮を剥



きよく漂白す。

九月

本月は麥作地を整へ、瓜類を收め、大根・漬菜類を肥培すべし。又雑草の多くは種實を結ぶが故に其登熟する前によく芟除して害を翌年に残さざること肝要なり。

○上旬

要行事の大	下種	手入
<p>下種 京菜・高菜・禾本科牧草・苜蓿等を蒔く。油菜・甘藍・花椰菜・高苜蓿等は苗床に蒔くべし。</p> <p>手入 麥畑を整地す。煙草を摘心す。大根・蕪菁・漬菜等を間引きて施肥中耕す。果樹園及び桑畑の除草を行ふ。</p>	<p>下種 苜蓿・高菜・禾本科牧草・苜蓿等を蒔く。油菜・甘藍・花椰菜・高苜蓿等は苗床に蒔くべし。</p>	<p>手入 麥畑を整地す。煙草を摘心す。大根・蕪菁・漬菜等を間引きて施肥中耕す。果樹園及び桑畑の除草を行ふ。</p>

收穫

收穫 豇豆・菜豆・馬鈴薯・百合・玉蜀黍の嫩穂・間引菜等を收む。

除病蟲害防

病蟲害防 麥の種子は黒穗病を豫防する爲に冷水温湯浸法を行ひて蒔くべし。其法先づ冷水に浸すこと七八時間にして後華氏百三十度攝氏五十四度半の温湯に五分間浸すにあり。

雑事

雑事 秋蠶上簇す。苦鹽汁を用ひて麥の種子を選る。

○中旬

下種

下種 油菜・葱・玉葱・甘藍・花椰菜・高苜蓿等を床蒔きにす。禾本科牧草を撒播す。青森縣岩手縣の一部にては大麥・小麥・裸麥等を蒔き始む。



移植	手入	收穫	病蟲害防
----	----	----	------

**移植** 蘭苗除蟲菊洋莓を移植す。  
**手入** 水田の水を落す。麥及び油菜畑を整地す。烟草を摘心す。油菜漬菜大根蕪菁等を間引く。桑畑果樹園を除草す。茄子を揚げて其跡を整地す。  
**收穫** 烟草の土葉を摘採す。蓼藍及び牧草の二番刈を行ふ。玉蜀黍貯藏用の馬鈴薯百合間引菜菜豆豇豆大豆等を收む。南瓜茄子蕃茄苦瓜越瓜扁蒲等を順次採收す。水田に放ちし鯉は落水と同時に取りて池に收容すべし。早生の梨及び苹果を採る。漆液をかく。  
**病蟲害防** 麥の種子は播種前に黑穗病の豫防として温湯浸法又は冷水温湯浸法を行ふべし。前法は種子を直ちに華氏百三十二三度の温湯に五分間浸すなり。後法は種子

雑事	下種	移植	手入
----	----	----	----

を先づ冷水に浸すこと七八時間にして後華氏百三十度の温湯に五分間浸すなり。  
**雑事** 扁蒲を薄く剥ぎて日乾すべし。烟草蓼藍等を乾燥製造す。蠶室蠶具の掃除及び片附をなす。盛岡にて二才駒の糶市を開くは此頃なり。  
**○下旬**  
**下種** 大麥小麦裸麥禾本牧草を播種す。油菜を直播す。葱玉葱甘藍花椰菜苜蓿等は皆床蒔とす。種用の百合を栽植す。  
**移植** 洋莓除蟲菊石刁栢等を移植す。  
**手入** 稻田の水を落し、稗を抜き取る。又畦畔の草を芟除す。油菜を間引く。大根漬菜蕪菁等は間引きて一株一本宛となし、中耕施肥すべし。胡蘿蔔もよく施肥中耕すべし。桑畑果



收穫

樹園を除草す。茄子、蕃茄、瓜類等を揚げて其跡を整地す。

收穫——早生稻及び三番牧草を刈る。稗、黍、蘆粟、玉蜀黍、秋蕎

麥、小豆、大豆、菜豆、刀豆、間引菜等を收穫す。煙草の土葉及び中

葉をかき取る。蓼藍の二番刈を行ふ。貯藏用の馬鈴薯、長薯、百

合を掘取る。茄子、蕃茄、南瓜、扁蒲、甘藍、子持甘藍等を順次採

す。苹果、梨を採る。漆液をかく。水田に放飼せる鯉を收む。

除蟲害防

病蟲害防除——麥類は播種前に黒穂の豫防を施すべし。大

根、蕪菁等の鋸蜂の幼蟲並びに甘藍の青蟲を捕殺す。

雜事

雜事——煙草、蓼藍、扁蒲を乾燥製造す。刈取たる蘆粟の壓搾

汁を煮つめて砂糖を製造す。福島縣白河及び岩手縣盛岡に

ては馬の秋季糶市を開く。

○福島にては去秋十一月より取り居たる海苔の採集を止

行事の大要

十月

む。宮城、岩手、青森の海岸にては初夏に始めたる昆布の採収を終る。宮城にては又石花菜の採収をも止む。

本月に入れば往々氣温氷點を下ることあれば、稻、粟、黍、大豆等の穀菽を收め、又諸種の蔬菜を順次採收し、其他それらへ寒防の設備をなすべし。

○上旬

下種——大麥、小麥、裸麥、燕麥等の播種は九月下旬より此頃迄をよしとす。暖き地方にては尙ほ晩生油菜を直蒔にす。種百合を植う。胡桃を取蒔にす。

下種



移植	手入	收穫	雑事
<p>移植——洋苳、除蟲菊を移植す。</p>	<p>手入——水田の稗を抜き、又畦畔の草を刈る。麥畑を整地す。大根、蕪菁、漬菜類の最終間引を行ふ。此時施肥中耕すべし。油菜、甘藍、花椰菜を間引く。瓜類の蔓を揚げて跡地を整ふ。胡蘿葡の除草、中耕を行ふ。</p>	<p>收穫——早生稻、蘆粟、稗、粟、黍、玉蜀黍、秋蕎麥等を收む。大豆、菜豆を收む。普通の時なり。小豆、馬鈴薯、蕃茄を收め終る。煮食用の大根、小蕪菁、漬菜、里芋、甘藷等を順次採收す。果物にては早生柿、晩生苹果、梨及び栗、胡桃等を收む。杉、扁栢、松の毬實を採收するも此頃なり。漆液をかき取る。</p>	<p>雑事——煙草、麥藍を乾燥製造す。收納したる穀菽はよく乾燥して順次調製すべし。刈取たる蘆粟より砂糖を取り又は</p>

下種	手入	收穫	雑事
<p>下種——尙ほ大麥、裸麥、小麥を蒔くべしと雖も、なるべく早きをよしとす。胡桃を取蒔にす。</p>	<p>手入——直蒔油菜を間引く。葱に培土す。園樹に寒防、或は雪支へを設く。桑の株根の土を掘り上げて枝を結束す。</p>	<p>收穫——陸稻及び水稲を刈る。陸稻は此頃刈るもの最も多し。秋蕎麥、粟、黍、玉蜀黍、大豆を收む。煙草を收め終る。絲瓜、玉葱、甘藍、里芋、甘藷、大根、漬菜、蕪菁等を順次採收す。杉、扁栢、漆の種子を採る。晩生苹果、梨、柿を採る。胡桃、栗の實を拾收す。漆液をかきとる。</p>	<p>雑事——煙草を乾燥製造す。稻、粟、蕎麥、大小豆等は皆よく乾</p>

酒精を造る。福島縣白河にては馬の秋季糶市を開く。

○中旬



燥して後調製すべし。園樹に寒よけをなし、或は雪支へを設く。澱粉を製造す。酛柿を製造す。

○下旬

下種 尙ほ大麥・小麥を蒔き得るも、一日も早き方良し。漆及び胡桃を取蒔にす。

手入

手入 葱に培土す。園樹に雪支へをなす。果樹園を中耕す。桑の根元を掘上げ同時に根刈。桑は枝を束ぬべし。空地は耕起して越冬せしむるをよしとす。

收穫

收穫 水稻・陸稻は本月中に刈取るべし。秋蕎麥・大豆・煙草等を收め終る。絲瓜を採る。貯藏用の里芋・大根・蕪菁・甘藷・蕃椒・甘藍等を收む。扁栢・松・杉・白樺・赤楊等の實を取る。漆液をかく。山林の下草を刈る。晩生の苹果及び柿を採る。栗及び七葉樹

雑事

の實を拾収す。

雑事 稻粟等はよく乾燥して後扱き落すべし。煙草の乾燥には特別の注意をなすを要す。酛柿及び澱粉を製造す。此頃より家畜の飼料の變化に注意すること肝要なり。

○十月十五日よりは獵期に入り、或種の保護鳥は捕獲を許さる。

○秋田縣にては六月より取り居たる石花菜の採取を終る。

十一月

行事の大

本月に入れば既に上旬より雪降り始むることあれば、收むべきは速かに收め、越冬せしむるものには相當の雪よ



けを設くべし。日一日と寒ければ萬事に油斷あるべからず。

○上旬

移植 苹果、梨、櫻、梅等の果樹並びに桑、桐等を此頃移植するもよし。油菜を植う。

手入 大麥、裸麥、直蒔油菜等の一番中耕を行ふ。諸種の果樹、園木等落葉し始むるが故に、落葉は集めて焼き棄つるをよしとす。庭木に雪支へを設く。果樹園を中耕し、且施肥す。桑の根元の土を掘り上げ、同時に根刈、桑の枝を結束す。玉蜀黍稈の片づけをなす。空地は犁起し置くべし。其他圃場の片づけに勉むべし。

收穫 蕃椒、蒟蒻、甘藷、里芋、薑、絲瓜等を收む。漬物用の大根

雑事

移植

手入

及び蕪菁、漬菜等を收納す。林地の下草を刈る。晩生苹果、柿を採る。栗、七葉樹の實を拾收す。漆液を搥き終る。山林樹木の伐採及び炭焼きを始む。雜草を刈る。

○中旬

移植 油菜及び蘭を移植す。桑及び諸果樹を此頃移植するもよし。採種用の漬菜、大根等を移植す。

手入 大麥、小麥、裸麥、燕麥、直蒔油菜等の一番中耕を行ふ。本地方中の南半部にては此頃果樹の剪定を行ふも、北半部にては翌年三月に至りて行ふ方よし。空地は耕起して越冬



收穫	雑事	移植	手入
<p>せしむるをよしとす。採種用の大根・蕪菁等に寒よけを施す。</p> <p><b>收穫</b>——里芋・蒟蒻を掘取る。大根・細根・大根・蕪菁・漬菜類を收む。秋田縣にては玫瑰の根を掘取る。此頃取りたるものは良質なり。山林樹木を伐採す。雑草を刈る。山野に葛及び車前葉山慈姑を掘取る。山に七葉樹及び檜の實を拾収す。</p>	<p><b>雑事</b>——馬鈴薯・澱粉を製造す。蜜蜂の窠箱に寒覆を施す。稲を調製す。大根・蕪菁等を貯蔵す。</p>	<p><b>移植</b>——油菜及び蕎麥を移植す。樹木類は此頃移植するも妨なし。採種用の大根・蕪菁・漬菜を移植す。</p>	<p><b>手入</b>——本地方中の南半部にては此頃梨・苹果・桃等の剪定を行ふも、北半部にては翌年三月頃に剪定するを良とす。採</p>

○下旬

收穫	雑事
<p>種用の大根・蕪菁・漬菜に寒防をなす。空地を耕く。圃上をよく片づけ置くべし。</p> <p><b>收穫</b>——牛蒡・結球白菜・京菜・蕪菁・細根・大根・葱・胡蘿蔔・蓮根等を順次採収す。林地の下草を刈る。玫瑰の根を掘る。此頃とりたるものは良質なり。山林樹木を伐採す。葛・車前葉・山慈姑を掘取る。</p>	<p><b>雑事</b>——葛・馬鈴薯・車前葉・山慈姑等より澱粉を製す。稻粃を調製す。蒿・苜蓿・甘藍等の苗床に雪覆をなす。炭を焼く。漬物・大根・切干・大根を乾燥す。</p> <p>○青森・秋田・福島にては海苔の採収を始む。宮城にては之より七月迄鮎を漁る。青森・秋田・山形にては鱈漁を終る。</p>



十二月

行事の大要

此月に入れば気温著しく低下し、積雪概ね地を覆ふに至る。されば山林樹木の伐採運搬、田畑の耕起並びに農地の改良工事等の外は多くは皆室内の仕事にして、稲粃の調製、俵装、澱粉の製造、種々の藁細工、帳簿の整理等は其主なるものなり。尙ほ次の行事あり。

移植

諸樹木類の移植はなるべく上旬に終るべし。

手入

上中旬に亘りて諸果樹の剪定を行ふ。空地を犁起すべし。

收穫

牛蒡、胡蘿蔔、葱、蓮根等を收納す。

雑事

稲粃を調製し俵装す。種々の藁細工をなす。澱粉を

製造す。漬物大根、切干大根の乾燥を行ふ。帳簿を調べ、收支を計算し、圃上及び家屋の内外をよく掃除し、整理して、目出度く新年を迎ふるの準備をなすべし。



東北地方之部終

第八、

北海道地方 附樺太

○氣候概要

北海道の氣候

此地方に於ける年平均氣温は八度半以下にして春季に於ける平均氣温は殆んど五六度以下なり但し十二月一月二月三月の四ヶ月間の平均氣温は概ね零度以下に低下すと雖も夏季八月にありては平均二十度を越ゆるの地少なからず要するに年内氣温の振幅甚だ大なり降水量は一般に小にして只西海岸に於て稍多く本州以西に見るが如き梅雨は著しからず降雪は其量少ならずと雖も遙に北越地



方の多量なるに及ばず。暴風の害を蒙ること一般に多からず。たゞ時に雪と相伴ひて人畜林木を害することあるのみ。域内諸地の各月平均気温及び霜雪の始終期節は次表の如し。(各測候所創立以來明治三十八年までの平均を掲ぐ)

平均気温

位置	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
函館	(-)二、八	(-)二、三	〇、九	六、二	一〇、四	一四、三	一八、九	二二、二	二七、七	二二、三	一五、三	〇、〇	八、四
壽都	(-)三、三	(-)二、六	〇、三	五、八	一〇、二	一四、一	一八、五	二二、〇	二七、五	二二、五	一五、二	〇、三	八、一
札幌	(-)六、一	(-)五、二	一、五	五、〇	一〇、四	一四、九	一九、一	二〇、七	二六、一	一九、三	二、七	三、一	六、九
宗谷	(-)六、二	(-)六、一	(-)二、四	三、六	七、一	一〇、三	一五、五	一八、三	二五、八	一九、八	二、九	二、八	五、五
上川	(-)一〇、〇	(-)九、〇	(-)四、二	三、四	九、九	一五、〇	一八、八	一九、七	二四、四	一七、〇	〇、六	五、七	五、〇
十勝	(-)一〇、五	(-)九、二	(-)四、一	四、〇	九、五	一三、九	一七、七	一九、一	二四、六	一七、七	〇、九	六、三	四、八
釧路	(-)九、一	(-)七、九	(-)三、七	三、三	八、〇	一二、四	一六、四	一八、三	二四、五	一七、八	一、〇	五、三	四、六

平均気温

霜雪の期節

霜雪の期節

位置	平均	最早	最晩	平均	最早	最晩
函館	十一月五日	十三年十月五日	三十一年四月十四日	四月十四日	三十一年五月廿二日	三十一年十月九日
壽都	十一月三日	十二年十月廿二日	三十一年五月廿二日	四月十四日	三十一年九月六日	三十一年十一月一日
札幌	十月廿九日	十三年十月五日	三十一年五月十四日	四月二十日	三十一年九月九日	三十一年十月二日
宗谷	十月廿七日	十八年十月十二日	三十年六月六日	五月十一日	三十一年十月二日	三十一年九月九日
上川	十月廿三日	十一年十月二日	三十三年五月廿七日	五月七日	三十一年十月五日	三十一年九月廿四日
十勝	十一月四日	七年十月十日	三十六年五月廿三日	五月七日	三十一年九月廿四日	三十一年九月廿四日
釧路	十一月五日	十四年十月廿四日	三十二年五月廿八日	五月七日	三十一年九月廿五日	三十一年九月廿五日



根室	網走	平均	初雪
十一月三日	十二月二日	最 早	廿七年十月廿二日
十二月四日	十二月廿二日	最 晚	三十年六月一日
五月六日	五月十三日	平均	終雪
六月九日	六月一日	最 早	三十年六月一日
六月九日	六月一日	最 晚	三十年六月一日
十月十日	十月十日	平均	初霜
九月廿四日	九月廿七日	最 早	三十四年九月廿七日
九月廿四日	九月廿七日	最 晚	三十四年九月廿七日
五月十九日	五月廿五日	平均	終霜
六月十四日	六月廿日	最 早	三十五年六月廿日
六月十四日	六月廿日	最 晚	三十五年六月廿日

○北海道地方年中行事

本地方の如き寒冷なる時期の長き地方にありては、春季屋外作業の開始即ち農作始めは其事最も重要にして、播種移植等各々其期を誤るべからず、啻に春季に於けるのみならず、又他の時期に於ても、農作期間著しく短きがゆゑに、勉めて其適期を外さざる様注意すべし。今左に主に本地方中の中央南部石狩後志の地方に於ける年中行事を掲ぐ、其他の地方にありては宜しく前掲氣象表の示す處によりて斟酌を加ふべし。

一月



要行事の大

本地方にては十二月より四月迄五ヶ月間は全く積雪の爲めに普通農作の屋外作業を営むこと能はざれば此期間に於ては屋内作業として主に事業の設計整理農具種子の準備材木の伐採運搬等の業務に従ふべし帳簿の記載整理は事業の改良を促す基なれば決して之を散漫に附すべからず。

前年の收穫物にして未だ調製俵装等を終らざるものは速に之を處理すべく開墾豫定地の樹木は積雪上より伐採運搬すべし野獸を狩るも亦此期の一事業にして直接利用し得べき鳥獸を狩獲すると共に夏季農作を害するが如きものは此際注意して狩殺すべし。

本月下旬より二月に入りて寒氣最も烈しければ家畜は

要行事の大

二月

其保護に十分の意を用ふべく屋根中庭などの雪よけは毎朝の重要な常務とす。

子弟には此期を以て農學に關する補習教育を受けしむべし。

積雪少なき地方にありては本月より三四月の頃に涉りて山野に車前葉山慈姑を採集す暇を利用して諸種の藁細工品を製作すべし。

其作業は前月と大差なきも本月は寒氣最も強く積雪はよく沈積して前月に着手したる樹木の伐採運搬等に



層の便益を與ふるものなり、事業の調査設計帳簿の整理、子弟の補習教育、繩草鞋等の藁細工品の製作、農具の修繕等に勉むべし。又本月に入りては家畜、家禽、蜜蜂等の保護は一層厚きを要し、厩の敷草は適當の時期に入れ換へて過多の堆積を戒むべし。種子蠶種等は運搬の好時期なれば其賣買に手落ちなかるべし。毎朝屋上並に道路の雪を除くことを常務とす。

三月

行事の大要

本月に入れば稍温暖を加ふべきも猶積雪深ければ雪を利用する運搬の業務はなるべく本月中に終る様急ぐべし。

し。又橇を利用して田圃に堆積肥料を送り置くべし。前月に續きて俵繩、草鞋等の藁細工品の製作、農具の修繕をなすべく、四月に入らば土地の耕起を始め或は播種すべき作物も少なからざれば豫定に従ひて種子の準備、農具の手入等に遺漏なき様取纏め置くべし。適宜に雪を除きて低設温床を作ること、本月の重要な業務なり。中に茄子、胡瓜等を下種すべし。果樹を剪定してよし。

○後志、膽振、渡島の海岸にては鯨漁を始むべく、又石花菜は渡島、後志地方にて採集に着手す。



四月

行事の大

本月に入れば積雪融け始め、中下旬に至りて全く融け終るものなれば、此時全力を盡して土地を耕起し、尙又施肥をなして種子を蒔く準備を整ふべし。前月に續きて種々の藁細工、農具、種子の手入、肥料の運搬等をなすの外、左の如き業務あり。

○下旬

下種

下種 下種すべき主なる作物は大麥、春蒔小麥、裸麥、燕麥等の麥類及び種々の牧草(禾草、荳草)何れも下種してよし、大低は混播す。牧草は毎年又は隔年に下種交代せしむるものありと雖も、本地方にては七八年乃至十年毎に播き代ゆる

接木

もの多しと云ふ。亞麻、春蒔油菜、玉葱、夏大根、牛蒡、甘藍、豌豆等なり。此他茄子、蕃茄及び胡瓜を床播す。

移植

接木 果樹の殺接を行ふ。

手入

移植 蘭を移植す。

病蟲害防

手入 稲、粃の選別及び浸種。翌月に入りて播種すべき穀類、其他の下種、豫定地の耕起、果樹の剪定。

雑事

病蟲害防 萃樹の巢蟲の幼蟲を驅除すべし。

雑事 家畜は此期に入りて急に服役の度を増すべし。ば、食物、手入等に最も注意すべし。且此時より漸く食物の轉換期に入るものなれば、飼養上の注意最も肝要なり。



しも此月に入りて停むるを普通とす。  
○本月十六日より九月十四日迄は狩獵法規則の定むる處によりて鳥類の捕獲を禁ぜられたれば注意すべし。

五月

本月は此地方の下種月にして農家の最も繁忙なる時なれども随てまた極めて重要な時なれば勉めて其適期に後れざる様注意すべし。尙ほ兼て開墾の作業を始むべし。

○上旬

下種

下種 稻をまく。其法に直播と代播とあり。苗代に蒔くも

行事の大要

手入

のは稍早きをよしとす。馬鈴薯・大麻・薄荷・油菜・玉葱・夏大根・牛蒡・荳草類(クローバー、アルハアアルフハなど)をまく。又此時より廿日頃迄に玉蜀黍・稷・粟等を下種すべし。苗床に蒔くべきものは茄子・甘藍・花椰菜・玉葱等なり。桑樹を植付けてよし。

雑事

雑事 家禽を孵化せしむ。

○中旬

下種

下種 上旬に續きて玉蜀黍・稷・粟・稗・大豆・小豆・菜豆をまく。大麻・薄荷・胡蘿蔔・南瓜を蒔くには最もよき時なり。又馬鈴薯・矮生菜・豆・越瓜・甜瓜を蒔き始めてよし。

手入

手入 燕麥・秋蒔及び春蒔きの大麥並に小麥の中耕をな



除病害防

す。適當に生長せる亞麻の一番除草をなすべし。

害蟲害防除 苹果其他の果樹に「ぶらんこけむし」の幼蟲

集合せるものを殺すべし。

雑事 蠶種を取り出し催青に着手す。家禽類を孵化せし

む。暇を得るに従ひて土地の開墾に従ふべし。

○下旬

下種 陸稻・玉蜀黍・胡瓜・南瓜・越瓜・甜瓜・胡蘿蔔等をまく。馬

鈴薯を植う。

手入

手入 上旬にまきし玉蜀黍を中耕す。春蒔の燕麥・大豆・小

豆・油菜の除草並びに中耕をなす。亞麻は此頃より後は畑に

入ることを得ざるゆゑ此時に行ふべき第二回目の中耕を

丁寧にするべし。

移植

移植 茄子・胡瓜・甘藍等の温床にて育ちたるものを露地

に植う。

雑事

雑事 西南部の暖き地方にては此月末に春蠶を掃き立

て其他の地方にては猶催青を行ふ。雞を孵化育雛す。苗代の

除草・灌水等に注意すべし。

十勝地方にては鯨鱈の漁獲を始む。

六月

行事の大

本月は前月に續きて播種移植を行ふ時にして、又麥類の

中耕培土も主なる行事なり。夏の間の開墾の仕事に勉む



○上旬

下種 此月に入りても尙ほ陸稻・黍・粟・稗・菜豆・大豆等を蒔くも妨げなし、されどなるべく早きをよしとす。馬鈴薯を植うべし。

移植 胡瓜を定植す。

手入 水田を整地す。玉蜀黍の間引及び中耕を行ふ。大豆・小豆の第一中耕、春蒔麥類の二番中耕、油菜の最後中耕をなす。苗代の管理に注意すべし。

雑事 一般に春蠶を掃立て、雞を孵化育雛す。

收穫 桑葉・高苜を取る。

○中旬

下種 二十日大根をまく。

移植

水稲の移植。茄子・蕃茄の定植。

手入

燕麥・玉蜀黍・春蒔の大麥並びに小麥等を中耕す。麥類は此際少しく土寄せをなすべし。矮生菜豆・馬鈴薯等の除草、中耕を行ふべし。玉蜀黍は此時適宜に間引くべし。

收穫

桑葉。

雑事

本地方中にて最も寒き釧路地方にては春蠶を掃立て、其他にては大抵二齡頃なり。

○下旬

下種

蕎麥及び二十日大根を蒔く。

移植

水稲の移植をなす。玉蜀黍の補植を行ふによし。茄子・蕃茄を定植す。

手入

陸稻の除草、中耕並に追肥。大豆・小豆・菜豆等の二番



除草及び中耕をなす。  
 收穫 桑葉及び早春に蒔きたる夏大根を収む。洋莓・櫻桃の採取をなす。

病蟲害防除 馬鈴薯にボルドー合劑を撒く。

雑事 海岸地方にては三四月頃より取り始めたる鮫漁を終る。鮫の漁獲に着手す。渡島後志地方にては昆布を取り始む。十勝釧路膽振方面にては早春より採り居たる石花菜の採收を終る。東海岸にては海苔の採集をも中止す。

七月

本月の下旬には收穫すべき作物多ければ其前に收納舎

收穫 病蟲害防 雑事 行事の大

又は蕨類の準備に手落なき様にすべし。未耕地の開墾は最も重要なり。

○上旬

下種 蕎麥を蒔く。

手入 玉蜀黍の腋芽を除く。水田の灌水に注意す。薄荷を

中耕す。茄子・胡瓜・蕃茄等に支柱を立て、施肥す。

收穫 牧草の一番刈をなす。但し刈取後よく反轉して乾

燥せしむべし。青刈燕麥を刈る。洋莓を収む。夏大根・甘藍・櫻桃

を取り始む。本地方の南西部にては蠶上簇す。

病蟲害防除 馬鈴薯・胡瓜等にボルドー合劑を撒く。此頃

には果實種々の病蟲害に罹りて落下するものあり、これ等

は速かに集めて焼くか又は深く地中に埋むべし。夜盜蟲の

下種 手入 收穫 病蟲害防



驅除を行ふ。

○中旬

下種 蕎麥及び秋大根をまく。

手入 水稻の一番除草を行ふ。大豆、小豆、菜豆等の中耕は

期に後れざる様注意すべし。馬鈴薯、玉蜀黍、稷、陸稻等を中耕

と共に少しく培土す。稻田に灌水す。茄子、瓜類に施肥す。

收穫 燕麥其他の牧草を刈取る。夏大根、洋苺を收む。春蠶

上簇す。

病蟲害防除 馬鈴薯にボルドー液を灌ぐ。夜盜蟲を驅殺

すべし。

雜事 牧草の乾燥に意を用ふべし。

○下旬

下種 燕麥及び秋大根を蒔く。蕎麥の下種はなるべく早

きをよしとす。

手入 馬鈴薯並に陸稻の中耕、培土をなす。稻田に灌水す。

稷及び稗の畑を除草、中耕す。

收穫 裸麥、燕麥、春蒔大麥等の刈取りに着手す。亞麻は下

種後凡そ九十日を経たる此頃に收むるを普通とす。秋蒔油

菜、蔬菜用の馬鈴薯を收む。北部地方にても蠶上簇す。

病蟲害防除 苹果の灰星病に罹りて落ちたるものを集

めて焼くべし。

雜事 秋に蔬菜類を蒔くべき地を整ふ。牧草及び麥類を

乾燥す。

西海岸の一部を除くの外は二十日頃より昆布の採收を始



む。十勝にては鱈漁を終る。

八月

此月は本地方の收穫月なり。穀類は刈取りの期に後れざると共に天候に注意して刈取後雨に遭はざる様注意すべし。

○上旬

下種 秋蒔大根、蕪菁、油菜等をまく。

手入 水稻の二番除草並に灌水、陸稻及稷の除草、瓜類の手入等をなす。

收穫 春蒔大麥、裸麥、燕麥、小麥、藎等の刈取をなす。油菜、亞

行事の大

下種

手入

收穫

麻等を收納す。豌豆、菜豆を順次に採收す。茄子、胡蘿蔔の採收を始む。本地方中にて最も晩き釧路地方にても蠶の上簇を了る。早生の苹果を採收す。  
雑事 麥類を乾燥し調製す。牧草を壓縮す。

○中旬

手入 刈取後の麥畑を順次に耕起して秋蒔穀類を蒔く準備をなすべし。水田に灌水す。未耕地の開墾に従ふべし。

收穫 前旬に續きて小麥、燕麥、豌豆、菜豆、藎等を收む。早生の苹果を採取す。

雑事 麥類を乾かして調製す。牧草を壓縮す。

○下旬

手入 水稻の灌水を止む。刈取後の麥畑を整地して翌月



收穫	雑事	行事の大要	下種
<p>下種の期に後れざる様に勉むべし。果樹園の除草をなす。</p> <p>收穫 外國種の晩生小麥を刈る。大麻、春蒔油菜、胡瓜、茄子、蕃茄等を收む。苹果を採收す。原野の下草を刈る。</p> <p>雑事 麥類の乾燥並に調製に従ふ。牧草を壓縮す。</p>	<p>九月</p> <p>前月に續きて諸種の作物を收納調製すべし。中旬に入れば地方によりて霜を結ぶに至ることあり。防寒の用意肝要なり。</p> <p>○上旬</p> <p>下種 小麥、油菜を蒔く。</p>		

手入	收穫	病蟲害防除	雑事	下種	手入	收穫
<p>果樹園の除草をなすべし。秋蒔の豫定地は勿論春蒔の地もなるべく犁き起し置くべし。</p> <p>收穫 稷、馬鈴薯、大麻、菜豆、薄荷を收め。又胡瓜、茄子、蕃茄、苹果等も適期を見て逐次採收すべし。原野の下草を刈る。</p> <p>病蟲害防除 夜盜蟲を驅除すべし。</p> <p>雑事 土地の切開きを勉むべし。</p> <p>○中旬</p> <p>下種 小麥を蒔く。北部にては油菜を蒔く。</p> <p>手入 全く水田の灌水を排除すべし。春蒔麥作地を犁起す。果樹園の除草に従ふ。</p> <p>收穫 菜豆、大豆、小豆、薄荷、稷、牛蒡、秋甘藍等を收納す。茄子、南瓜、苹果等も採收す。牧草類の二番刈をなし其乾燥に従ふ。</p>						



手入	收穫	注意	行事の大要
<p>○下旬</p> <p>手入 暇を得るに従ひ收穫後の畑を犁起すべし。</p> <p>收穫 前旬に續きて大豆、小豆、菜豆、稷、薄荷、馬鈴薯、秋甘藍、大根、牛蒡、茄子、苹果等を收む。又蕎麥、粟、稗、玉蜀黍、玉葱等の採收を始む。牧草類の二番刈並びに其乾燥に従事す。</p> <p>○九月十五日の後は狩獵規則によりて定められたる禁止鳥以外のものは捕獲を許さる。</p>			<p>十月</p> <p>本月に入れば南部の地方にも往々結霜あり。又下旬に至れば降雪の虞あり。圃上の收穫物は其前に收め終ること</p>

收穫	雜事	手入	收穫	雜事	收穫
<p>○下旬</p> <p>收穫 大豆、小豆、玉蜀黍等を速に收め終るべし。</p>	<p>雜事 牧草を壓縮す。</p>	<p>手入 秋蒔小麥並に油菜を中耕す。</p>	<p>○中旬</p> <p>收穫 稻、大豆、小豆、稷、粟、稗、玉蜀黍、蕎麥、菜豆、秋甘藍、馬鈴薯、大根、玉葱、胡蘿蔔等を收む。苹果を收め終る。</p> <p>雜事 二番刈牧草の乾燥及び壓縮をなす。</p>	<p>肝要なり。</p> <p>○上旬</p>	<p>收穫 稻、大豆、小豆、稷、粟、稗、玉蜀黍、蕎麥、菜豆、秋甘藍、馬鈴薯、大根、玉葱、胡蘿蔔等を收む。苹果を收め終る。</p> <p>雜事 二番刈牧草の乾燥及び壓縮をなす。</p>



雑事

雑事 日高、擔振にては鱈漁を了る。北部沿岸及び千島にても昆布の採收を終る、

十一月

行事の大

收穫

雑事

此月に入れば到る所降雪あるがゆる、收むべきは速に收め、其然らざるものは適宜防寒の設備をなすべし。本月上旬には收め残れる大豆、小豆を收む。中旬には十勝、釧路地方にて昆布の採收を終る。渡島、後志地方にては此頃より四月末迄海苔を採る。家畜、家禽は食物を換へる時にして、又之より愈々寒さを増すの時期なれば飼養の用意最も周到なるべし。

行事の大

十一月

本月に入れば土地は概ね雪にて蔽はれ、屋外の作業を営むこと困難なれば初秋の頃より收めたる穀類等を調製貯藏し種子用のものは適宜に乾燥選別して危害なき様に貯ふべし。一年間の收支を計算し、諸帳簿を調べ、又適當の手仕事をなして餘暇を利用すべし。積雪に對してそれらの設備をなすことも肝要なり。



### 附錄 樺太地方

地勢は峻嶮の地少なきも南北に連れる二山脈ありて其兩側の氣候從て相等しからず之を概言すれば一般に大陸氣候に近きも西海岸は東海岸よりも暖く中部地方最も寒冷なり各地共氣温は二月に於て最低を示し時として零下三十度以下ることあり四月に至りて漸く月平均氣温一二度となり平地の氷雪融解す然も五月中は一日最低氣温の零度下となること少なからず稀には六月に入りても尙零度下となることあり六月は濃霧月にして八月に入れば氣温益益昇りて一日最高温二十六七度に達す結霜の始まりは九月上旬なることあるも平均は中旬にして終は六月上旬に



至る。降雪は十月中旬下旬に始まり五月上旬に融雪を終る。今左に主要農作物の播種並びに收穫の期節を略記すべし

作物名	適種	播種期	收穫期
大麥	シールアンメロン 六角シバリー	自五月下旬	自九月中旬
春小麥	在來種	自五月上旬	自九月上旬
秋小麥	札幌サスカチアン マーチンアンバー 赤皮	自八月中旬	自九月中旬
裸麥	丸麥、兩得、青實	自五月上旬	自九月上旬
燕麥	リースホース	自五月中旬	自九月上旬
馬鈴薯	在來種 アールヒーローズ ビーチヘプロン	自五月上旬	自九月上旬
菜豆	長鶉、金時	自五月上旬	自九月上旬
豌豆	在來各種	自五月上旬	自八月下旬

昭和七年六月三日  
小牧實繁

明治四十二年十二月廿八日印刷  
明治四十二年十二月卅一日發行

農事曆合本  
定價金壹圓五拾錢



著者 稻垣乙丙  
著者 三宅千秋  
發行者 大橋新太郎  
印刷者 市川七作  
印刷所 博文館印刷所

東京市日本橋區本町三丁目八番地  
東京市小石川區久堅町百八番地  
東京市小石川區久堅町百八番地

發兌元

東京市日本橋區本町三丁目  
振替貯金口座東京二百四十番

博文館









——典寶好の比無界業產——

實驗  
應用  
**通俗產業叢書**

洋裝大判並製  
美本每號紙數  
及定價不同

既刊書目

- 前香川縣學長 一戸清方君著  
第壹編 ● 麥稈眞田製造法  
正價金貳拾五錢 郵税金六錢
- 農藝化學士 柿崎鋨太郎君著  
第貳編 ● 堆肥製造施用法  
正價金參拾錢 郵税金六錢
- 青年農會報記者 和田歌吉君著  
第參編 ● 果物利用法  
正價金參拾錢 郵税金六錢
- 米國 森山家三郎君 志岐耕岳君共著  
第肆編 ● 畜產物利用法  
正價金參拾錢 郵税金六錢
- 工學士 田中宗一郎君著  
第伍編 ● 炭燒法と副產物  
正價金參拾五錢 郵税金六錢
- 石井吉次郎君 一戸清方君共著  
第陸編 ● 實用漆工術  
正價金四拾錢 郵税金六錢

——書導指良最の興隆運國——

- 農學士 山下脇人君著  
第七編 ● 乳用山羊の飼養  
正價金貳拾八錢 郵税金四錢
- 新潟縣三條染  
色講習所長 長津愛染君著  
第八編 ● 實用捺染法  
正價金六拾錢 郵税金八錢
- 工學士 田中宗一郎君著  
第九編 ● 食料品保存法  
正價金七拾錢 郵税金八錢
- 農學士 日下部準太郎君 石田孫太郎君共著  
第十編 ● 改良蠶室法  
正價金四拾錢 郵税金六錢
- 林學士 安藤時雄君著  
第十一編 ● 竹林保護繁殖法  
正價金四拾錢 郵税金六錢
- 實業專攻 高見竹次郎君著  
第十二編 ● 夏秋蠶飼育法  
正價金參拾五錢 郵税金六錢
- 農商務省月寒  
種畜牧場長 農學士 岩波六郎君著  
第十三編 ● 牧場の經營  
正價金四拾八錢 郵税金六錢
- 農學士 鈴木敬策君著  
第十四編 ● 牛乳と乳製品の研究  
正價金四拾五錢 郵税金六錢
- 農學博士 横井時敬君 校閱  
農學士 谷中熊之助君 逢阪重助君著  
第十五編 ● 害蟲驅除法  
正價金四拾五錢 郵税金六錢

發兌元 博文館

東京市日本橋區本町三丁目  
振替貯金口座東京二四〇番

(以下續々刊行)



宮内省 苑内局長 福羽逸人君著

果樹栽培全書

編 拾八版 編 拾五版 編 拾四版 編 拾四版

第一編 總論 果樹栽培の現況を論ずる 果樹の種類 果樹園設置論 果樹園收支計算 果樹園に適すべき位置の推擇 氣候 土質 園地の廣狹 園地の準備 地味改良 栽培法 剪定法 繁殖法 各論 苹果樹栽培 第二編 梨樹栽培法 楓樹栽培法 柘榴栽培法 枇杷樹栽培法 柿樹栽培法 柑樹栽培法 第三編 阿利樹栽培法 梨樹栽培法 桃樹栽培法 櫻桃樹栽培法 杏樹栽培法 李樹栽培法 巴旦杏樹栽培法 栗樹栽培法 榎樹栽培法 第四編 葡萄樹栽培法 須具利栽培法 懸釣子樹栽培法 無花果栽培法 栗樹栽培法 胡桃樹栽培法 榛樹栽培法

蔬菜栽培法

廿一冊洋裝菊判美本 紙數五百四十五頁 西洋木版密圖百六十個入 正金七拾錢 小包半金八錢

本書は園藝に有名なる福羽逸人君が多年の實地經驗と歐米に在る研究せられし實際とを一つに整理し東京内藤新宿植物御苑に實施し且つ駒場なる農科大學々々生に講述せられし本邦及び歐米の蔬菜栽培法にして世上無二の珍本たり世の園藝及び農事に志す諸君に一讀を薦む

全四冊洋裝菊判美本 紙數六百四十七頁 正金壹圓五錢 郵稅各分本一、參拾錢 各金貳拾五錢 郵稅一、參拾錢

東京市日橋本區本町三丁目四番 博文館 發兌元

農學士 東條秀介君校閱 江原春夢君著

果樹草花 栽庭造 園藝全書

十一冊洋裝大判美本 紙數四百五十二頁 正金六拾錢 郵稅金八錢

果樹草花 栽庭造 續園藝全書

五冊洋裝菊判美本 紙數二百五十四頁 正金六拾錢 郵稅金八錢

目次 總論 果樹類栽培法 木材に適應する樹木の栽培法 茶樹の栽培法 竹の栽培法 花の賞せらるる樹木の栽培法 草花栽培法 根菜類 蕈類 瓜類 葉菜類 盆栽培法 造庭法 雜錄 園藝曆

口方全語 秘藏の珍奇品盆栽寫真四十餘個挿 本編は先づ盆栽土調製法、盆栽植込法、灌水法、肥料使用法、鉢の種類、植込配置法、盆栽支柱法、及陳列臺、害虫驅除法、夏期保護法、冬期保護法等の一般の心得を掲げ、夫れより觀葉樹、觀實樹、觀花草花類等數百種に就て一々其の栽培撫育法を簡明通俗の文を以て懇切に説明し、添ふるに數多の挿圖を以て、前編と合せて園藝者必携の寶典たり。

東京市日橋本區本町三丁目四番 博文館 發兌元



農學士 横山春平君著

最近 實 驗 養 鷄 法

全 一 冊

洋裝菊川特製美本  
木版密出四十二個挿入  
紙數二百九十九頁  
正金八拾錢  
小包料金八錢

横山農學士の養鷄に關する遺語の如何に深奥なるかは世既に定評あり本書は著者が多年の實験を經とし、該博なる學識を緯として織りなされたものにして其内容は博く養鷄業の全般に涉り、凡そ養鷄に關する事項は細大叙して洩さなく、詳々説いて到らざるなし。加ふるに行文極めて通俗平易にして、記事懇切丁寧を極め、恰も實際につき一々手を執り指導さるゝの觀あり。

近時養鷄業の勃興に伴ひ、此種の書類の輩出は、常に汗牛充棟のみならずと雖も、而かも多くは論理の臺上に建てられ、本書の如く永年に亘る實験の臺上に築かれたるものなし。乞ふ速に一本を迎ひ實験養鷄法の名の、決して空しくらざるを證せらるべし。

農學士 月田藤三郎君著 ● 家 禽 學 (八版)

並製正價金四拾錢 郵税金八錢  
特製正價金五拾五錢 小包金八錢

農學士 高見長恒君著 ● 畜 産 汎 論 (十二版)

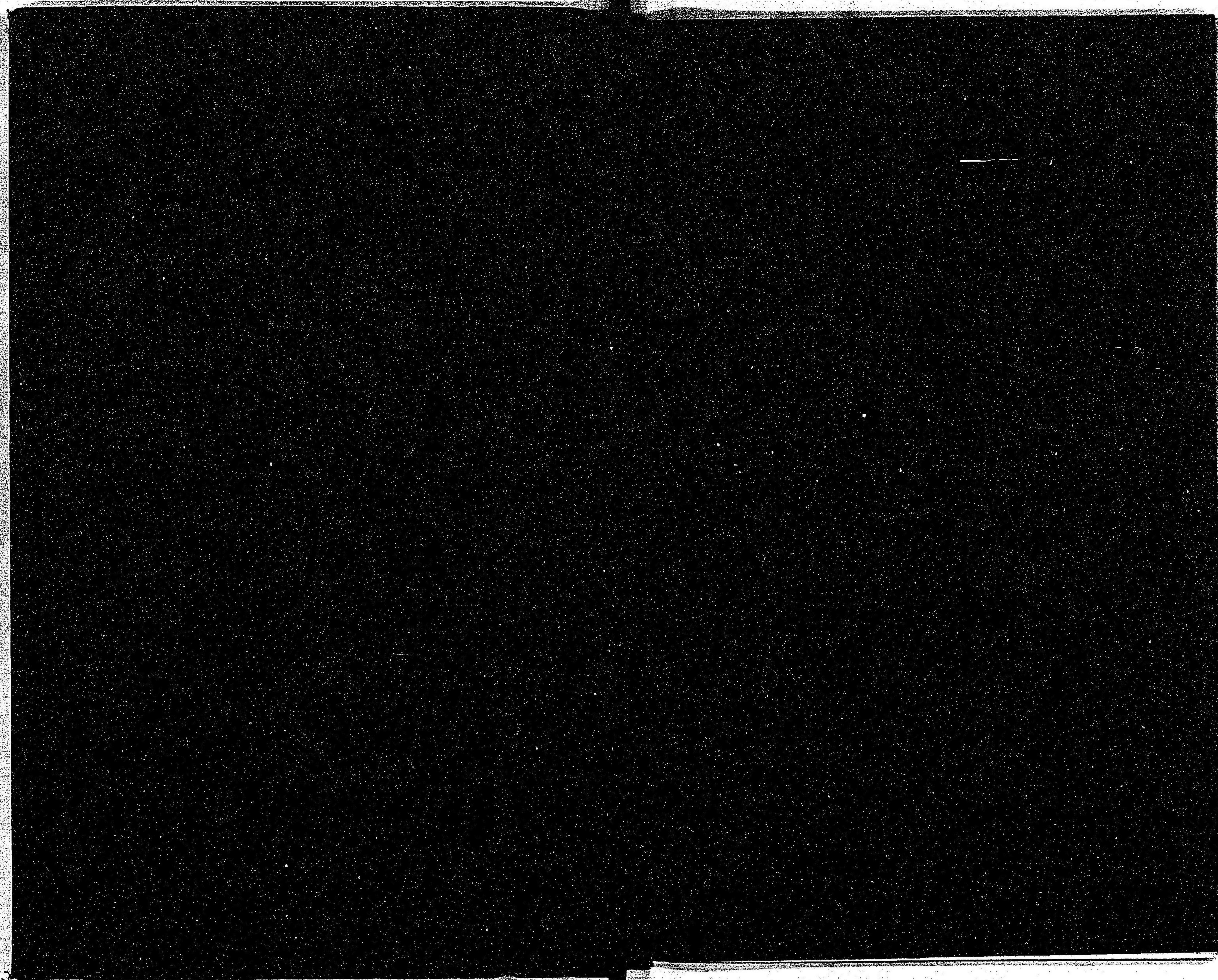
並製正價金四拾錢 郵税金八錢  
特製正價金五拾五錢 小包金八錢

農學士 山口 晋君著 ● 畜 産 各 論 (七版)

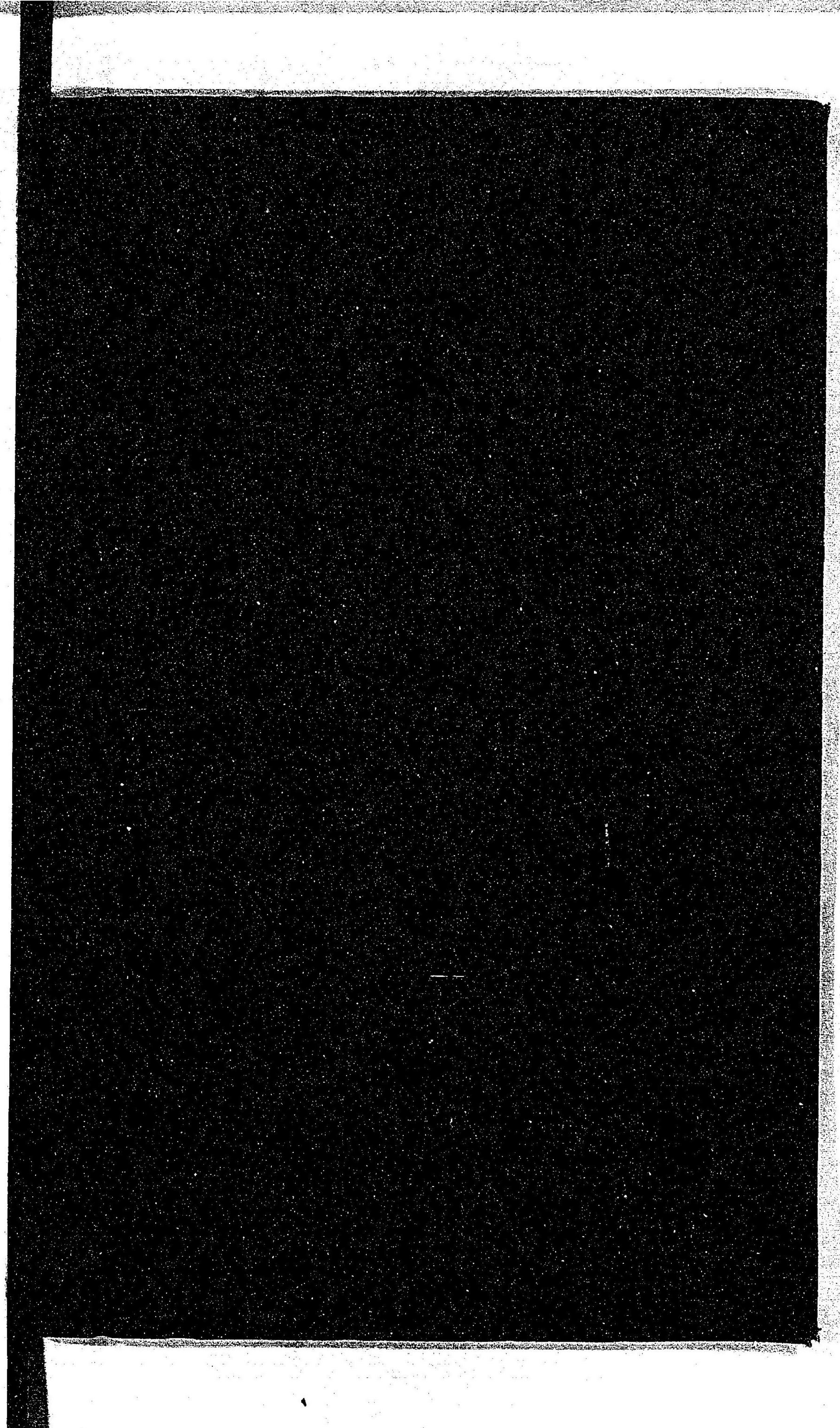
並製正價金四拾錢 郵税金八錢  
特製正價金五拾五錢 小包金八錢

發 兌 元 東 京 市 日 本 橋 區 本 町 三 丁 目 博 文 館











062297-000-2

610-1375n

日本区分農事曆

稻垣 乙丙

三宅 千秋 / 著

M42

CCA-1148





